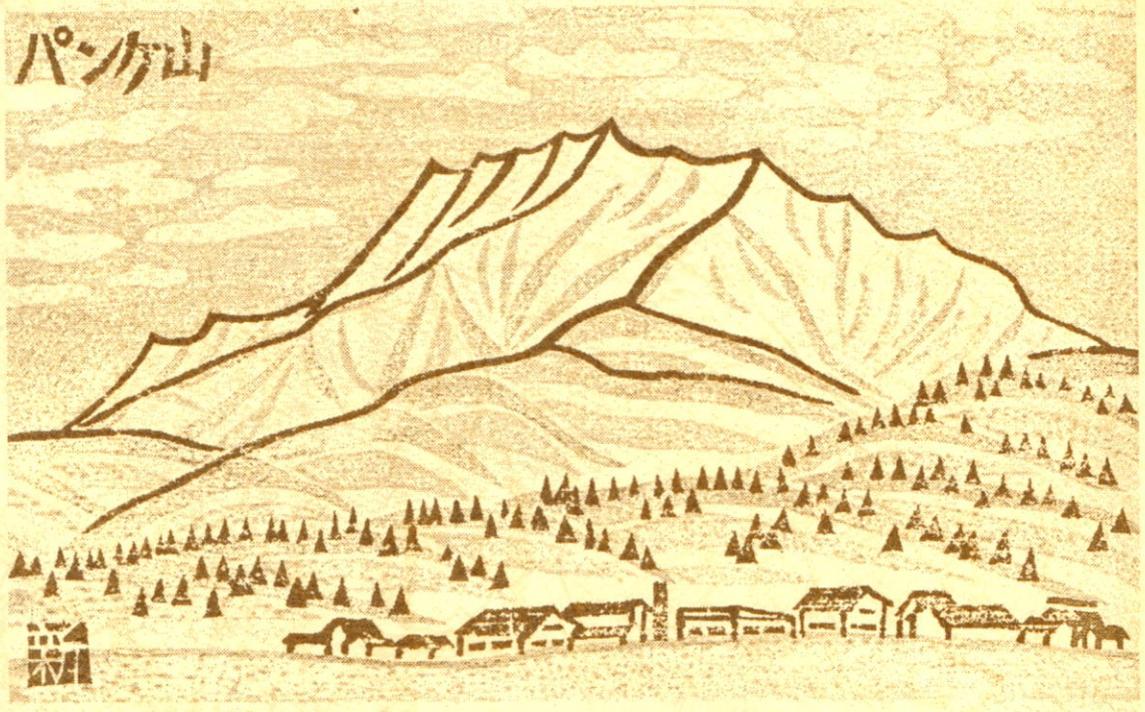


(社)日本雪氷学会北海道支部機関誌

I S S N - 1 3 4 0 - 7 3 6 8

# 北海道の雪氷

第20号



2001年 8 月

発行 (社)日本雪氷学会北海道支部

## 目次

巻頭言 .....	1
2001年度研究発表会発表論文 .....	2
2000年度事業報告 .....	93
2000年度会計報告 .....	97
2001年度事業計画 .....	98
2001年度会計計画 .....	100
2001年度北海道支部役員名簿 .....	101
日本雪氷学会と道内関係機関のホームページ .....	102
社団法人日本雪氷学会北海道支部規約 .....	103

(表紙 画：斉藤新一郎、題字：福沢卓也)

## 巻頭言

支部幹事長 成田英器（北大低温科学研究所）

「北海道の雪氷」も昭和 57 年の創刊以来、第 20 号を発行するまでになりました。この機会に本誌に掲載されてきた研究発表（支部会発表）を顧みると、前半期は雪・氷の基礎的研究、降雪気象現象解析とふぶき、なだれ、着氷雪、屋根雪などの雪氷現象、そして凍上、海水研究など幅広い分野からの発表がなされてきました。一方、後半期は交通・道路にまつわる雪氷、なだれ、ふぶき、そして、屋根雪など「暮らし」に密着した課題が多くなった傾向が見られます。この傾向はその分野の積極性があったためかもしれませんが、社会の要求を反映した結果なのでしょう。私達が雪・氷を取り扱っている以上、人間の暮らし・環境に深く関わってくるのは当然の成り行きで重要です。雪氷学会で発表される仕事は雪・氷をキーワードとした複合科学で、これまである意味では学際的に成し遂げられてきたと思います。しかし、現在、学際性を問われる中でも自然科学間だけではなく、「文理融合」までその学際性が拡張しつつあります。このような動向の中で、私たちの分野が他分野と付き合っただけのためにも、また、支部が担う北海道の「暮らし」に貢献する雪氷研究を発展させるにも、時代に即した基礎的研究の遂行とそのための環境維持が疎かにされない一つの要因ではないでしょうか。

今年の支部研究発表件数は 25 件と例年よりも増え、急ぎよ時間延長をして 1 日と致しました。誠にうれしいことですが、その反面、聴衆者が少なかったのです。研究発表会は支部の主要行事の一つです。今後、この発表会の充実（雪氷の基本的研究を含めた幅広い研究の発表）と上記のことを含め、北海道支部の活性化のために様々な問題があります。この解決のための一つの手段は、会員相互の情報交換と社会への発信を試みることを考えます。いま、北海道支部のホームページを開設する計画を模索中です。支部会員の皆様には、このような場を使って情報交換が有効に行われるならば、一層の支部のみならず学会の発展に通ずると期待する次第です。

## (社)日本雪氷学会北海道支部2001年度研究発表会発表論文 目次

1. 総合学習サポートページ「雪たんけん館」の開設 -4-  
 ○高橋庸哉(北教大附属教育実践総合センター)、新保元康(北教大附属札幌小)、並川寛司(北教大札幌校)、土田幹憲(札幌市立美しが丘緑小)、割石隆浩(札幌市立あいの里東小)、佐藤裕三(札幌市立屯田南小)、坂田一則(札幌市立屯田西小)、小笠原啓之(札幌市立八軒北小)、渡部友子(札幌新川高)、太田真・遠山寛人・福田大年(ピコグラフ)、北海道「雪」プロジェクト
2. 一都合により発表取りやめー
3. 多雪山地流域における融雪期の水及び化学物質収支 -6-  
 ○山崎学・石井吉之・小林大二(北大低温研)、柴田英昭(北大演習林)
4. カラマツ林の融雪量に対する樹幹周り融雪凹みの貢献度測定例 -9-  
 ○小島賢治(北大名誉教授)
5. オホーツク海の氷厚データセットの開発 -13-  
 ○館山一孝(オホーツク流氷科学研究所)、榎本浩之(北見工大)
6. 2001年のオホーツク海の氷況 -17-  
 ○館山一孝(オホーツク流氷科学研究所)、青田昌秋(北大低温研附属流氷研究施設)
7. 積雪による海水の諸特性の変化 -21-  
 ○小嶋真輔、榎本浩之(北見工大)
8. 衛星センサー(SSM/I, AVHRR, SAR)および流氷レーダーによるオホーツク海南部の海水移動観測 -24-  
 ○榎本浩之(北見工大/観測フロンティア)、木村詞明(NASDA/EORC)、羽二生博之・長谷川智一(北見工大)、館山一孝(オホーツク流氷科学研究所)、白澤邦男(北大低温研)、浦塚清峰(通総研)
9. オホーツク海南部の海水の酸素安定同位体比の特徴 -28-  
 ○豊田威信・河村俊行・中塚武・若土正暁(北大低温研)
10. 屈斜路湖の結氷期後半における御神渡りの成長について -32-  
 ○東海林明雄・石原由香・浅野暢・亀田浩司・苗加大輔・愛沢さとみ・岩田幸基・吉田陽才・梅田諭(北教大)、石黒直子(お茶の水大)、ペロニーク・マルバル(リュモージュ大)
11. 春採湖の結氷下における溶存酸素飽和度の上昇について -36-  
 ○梅田諭・東海林明雄(北教大)
12. 普通電線の着雪特性に関する実験的検討 -40-  
 ○大浦久到・守護雅富・岡本誠(北海道電力)
13. 平成12年度冬期の異常低温による道路の凍上被害対策 -44-  
 ○久保宏・金澤雅博・毛馬内学(北海学園大学工学部)
14. 車両走行が雪氷路面に与える影響について -47-  
 ○宮本修司・浅野基樹(北海道開発土木研)
15. 積雪を考慮した避難計画に関する研究 -51-  
 ○内藤恵・細川和彦・苫米地司(北海道工業大)
16. 表面積雪粒子の飛び出し風速の観測 -55-  
 ○佐藤研吾・谷藤崇・高橋修平(北見工大)
17. しもぞらめ雪の形成および雪面の昇華蒸発に伴う安定同位体組成の変化 -59-  
 ○八久保晶弘(北見工大)、鎌田慈(産総研)、佐藤篤司(防災科研)、橋本重将(名大)、中尾正義(地球研)
18. 積雪層構造モデル: Crocusの検証実験 -63-  
 ○八久保晶弘(北見工大)、青木輝夫(気象研)、榎本浩之(北見工大)
19. 支笏湖畔の同時多発雪崩 -67-  
 ○山田高嗣・山田知充(北大低温研)、大槻政哉・竹内政夫(日本気象協会)、川島由載・池田保夫(ドーコン)
20. 衛星マイクロ波による積雪観測の問題点と改良 -71-  
 ○伊賀久晃・榎本浩之(北見工大)
21. 暗視野照明による雪結晶の顕微鏡写真撮影法 -75-  
 油川英明・尾関俊浩(北教大岩見沢校)
22. CO<sub>2</sub>ハイドレートの形成実験 -77-  
 ○八久保晶弘・本池真生男・小林正敏・加地善則・百武欣二・阿部清・庄子仁(北見工大)

23. 落葉広葉樹林における積雪期のCO2放出量 -81-  
○鈴木覚・中井裕一郎・北村兼三(森林総研北海道支所)
24. ヨーロッパトウヒ防雪林の幹曲がり・幹割れと塩害との関係について -85-  
○斎藤新一郎(専大北海道短大)、山寄勝志・佐々木正博(日本道路公団岩見沢管理事務所)
25. 間伐木を用いた仮設防雪林の諸機能について(2) -89-  
○斎藤新一郎(専大北海道短大)、佐々木正博(日本道路公団岩見沢管理事務所)、鳥田宏行(道立林試道東支場)